人間発達科学部紀要　第11巻第2号：89－101（2017）　学術論文

メディア表現における「孤独」と「孤独感」に関する考察

山田　斗志希*・上山　輝

A Study on the Solitude and Loneliness in Media Expression

Toshiki YAMADA*, Akira KAMIYAMA

E-mail : kamiyama@edu.u-toyama.ac.jp

キーワード：孤独，孤独感，物語，キャラクタ，友達，友情
keywords：Solitude, Loneliness, Story, Character, friend, friendship

1　はじめに

筆者はこれまで，メディア表現を対象として，物語を有するコンテンツ（小説，映画，アニメーション，テレビドラマ作品など）の中でも，悪役キャラクタを主とした調査・分析・考察を行ってきた。[1] 結果，悪役キャラクタはプロットを豊かにし，物語の面白さや評価に影響を与えている可能性が示された。この場合「豊か」とは，悪役キャラクタは単に「悪」を象るだけでなく，物語を盛りあげる要になっていることを言う。基本的に悪役キャラクタは主人公側と対立する考えをもつことが多く，互いに衝突する。そこに受容者（読者，視聴者など）を心的に揺さぶるようなドラマ性が生じるからである。また，こうした悪役キャラクタの中には，ひとりでいることが間々あり，たとえ仲間がいても，それは目的上必要というだけで平常はひとりである場合が一つのタイプとして抽出されている。ひとりを基準にする悪役の存在と悪役が豊かにする物語のプロットという２点から，メディア表現として物語の中のこのようなプロットを受け入れている我々の中では，悪役キャラクタの「ひとり」と，私たちの現実における「ひとり」とが，果たしてどのような関係にあるのかという疑問が生まれた。

近年日本では「ひとり」であることに対して「孤独」という言葉を用いてネガティブなイメージがつきやすい一方で，「ひとり」が一般的に認知されている状況も存在している。以下に，それぞれ具体的な事象について簡単に述べておく。

孤独に関しては，昼食を共にする友達がおらず，ひとりで食事をする姿を見られたくないという想いからトイレ内で昼食をとる者を示す「ランチメイト症候群」[2] が記憶に新しい。後に「便所飯」と呼称を変え，新聞やテレビ番組で取り上げられた。[3] これらのトピックにおいても，特に学生時代などは友達がいないことを起因とする悩みをもつ者は存在し，かつ明るみに出てきにくい場合がある。他には，友達欲しさに，人に気に入れられることに腐心する者，[4]「こんな私が側にいていいのか」「私がいることに迷惑を感じる」ように思い居たたまれず友達ができない者，[5] など「友達ができない」という共通項をもつ孤独の側面として取り上げられている。

一方で，ひとりでいることを前提としたサービス業の展開も増えている。ひとりカラオケ専門店「ワンカラ」は，[6]「ブース」でなく「ピット」と呼称される部屋のなかでヘッドホンを着け，高精度のコンデンサーマイクに向かい歌うことができる。

ただし，現実的にこうしたサービスが，ひとりでいる人間の状態をネガティブなイメージをもつ「孤独」という単語から明確に切り離せているとは言えない。では，なぜ「ひとり」でいることが「孤独」と切り離せないのか。これらについて考察するために，本稿では，主として文献等による問題の抽出と分析を試みる。具体的には主として物語を有するコンテンツを取りあげるだけでなく，個人の考えが表明されている文献，インタビューやテレビ番組での発言なども対象とする。

本稿では以下の３点について考察することを目的とする。

1）「孤独」の意味における「状態」と「感覚」の関係

* 人間発達科学研究科　修士１年

2）メディア表現における「孤独」とネガティブなイメージの連想について
3）「孤独」と「社会におけるコミュニケーション能力不足」の同一視について

2 「孤独」の意味における「状態」と「感覚」

2-1 辞書における「孤独」

まず辞書において「孤独」はどのように定義されているのかをみていく。辞典による言葉の解説は，その発行年，またそれに近い年代における一般的な「孤独」をイメージする際に有用と判断したからである。

1）角川国語辞典（1969）は，孤独について「①身寄りのない者。みなしご。ひとり者。『－な生活』②たったひとり。ひとりぼっち。『-感』」[7] と記している。
2）岩波国語辞典 第四版（1986）では，孤独について「ひとりぼっちであること『-感』。もと，みなし子とひとり者。」[8] と記載される。なお，第五版（1994）でも同様であった。[9]
3）現代国語例解辞典（2001）は，孤独について「ひとりぼっちであること。また，そのさま。『孤独な生涯』『天涯孤独』『孤独感』」[10]。
4）集英社国語辞典（2012）では，孤独について「ひとりぼっちであること。『天涯-の身』」と記し，続けて「孤独死」についても述べている。[11] なお，本辞典には「孤独感」が掲載されていない。
5）三省堂国語辞典（2014）では，孤独について，上述とは異なる意味づけがみられた。「なかま・味方がなくてさびしそうなようす。ひとりぼっち」とし，続けて「孤独死」についても述べている。[12]「孤独感」は掲載されていないが，孤独の派生として「孤独さ」が挙げられている。
6）最後に「コトバンク」による「孤独」の解説を確認したい。コトバンクはインターネット上に存在し，複数の辞典を一度に検索できるサービスであるため，紙の媒体と比べ，更新そのものに手間はかからない。この点が従来の辞典とは異なる。言い換えれば，現代における語の用法が素早く反映される辞典となり得る。以下は，その中で検索結果とされた「デジタル大辞泉」における「孤独」の解説である。「1 仲間や身寄りがなく，ひとりぼっちであること。思うことを語ったり，心を通い合わせたりする人が一人もなく寂しいこと。また，そのさま。『孤独な生活』『天涯孤独』 2 みなしごと，年老いて子のない独り者。」[13] また「孤独感」については，「自分はひとりぼっちだという感覚。心の通じ合う人がなく寂しいという気持ち。」[14] と記されており，寂しい，という形容詞を含む定義がなされていた。

以上，6つの辞典における「孤独」の解説を確認した。ポイントは3つ挙げられよう。①「孤独」の解説は辞典により若干の違いがみられるが，どれも「ひとりぼっち」を主とする意味づけを行っていること。② 状態として捉えられる「孤独」と感覚として捉えられる「孤独感」が同じところで扱われているが，年代が遡るほど派生語として別項目になっていること。ただし，辞典によっては孤独の派生として「孤独さ」を挙げており，「孤独感」は掲載されていない。③ 現在に向かうほど「孤独」に「なかま・味方がなくてさびしそう」「心を通じ合わせたりする人が一人もなく寂しいこと」など，「印象」「感覚」を含む定義が目立つようになることである。

ここから「孤独」と「孤独感」が明確に区別されていないことによる両概念の混在を見ることができる。本来，「状態」と「感覚」は別の概念と考えられるが，これらを一括りに扱うことで，「孤独」という定義自体に「寂しい」「友達がいない」という解釈が入り込む余地を与えてしまっていると考えられる。定義のレベルにおいては，この傾向はより現代になるにしたがって強まっていると考えられる。

2-2 物語に見出す孤独

「孤独」が，定義として印象や感覚を含むようになったのは，比較的最近であると考えられるが，物語においては，以前からそのような意味で捉えられている。ここでは，いくつかの物語性を有する作品を取り上げる。

1）芥川龍之介『孤独地獄』[15]

芥川が自身の母から聞き，母は自身の大叔父から聞いたという，ある僧の話。津藤という男がおり，ある日彼は，吉原の玉屋にて，ある禅僧と知り合う。僧は大酒を飲み，女性と遊ぶため，表向きは出家ではなく医者ということになっていた。津藤はその僧と仲良くなった。

ある日禅僧は，こんな話をし始めた。仏説による

と，地獄は，根本地獄，近辺地獄，孤独地獄の3つに分けられる。そのなかで孤独地獄だけは，忽然として目前に現出する。自分は2,3年前にこの地獄に堕ちた。何に対しても永続した興味を覚えない。いつまで経とうと地獄からは逃げられない。その日その日の苦しみを忘れるように生活をしていくものの，日増しに苦しくなるならば，死んでしまうより他はない。昔は苦しみながら死ぬのは嫌だったが，今では―。それ以来，その僧は来なくなり，誰もその行方を知らない。このような話の人物に対し芥川は自分の同情を彼らの生活に注ぐ。なぜなら，ある意味自身も孤独地獄に苦しめられている1人だからである。

津藤が知り合った禅僧。僧という社会的地位に申し分なく，また吉原に頻繁に出入りしている様子から，貧乏ではないと推測できる。しかし，自身は孤独であり，苦しいのだと津藤にいう。物語は，芥川自身も禅僧と同様に孤独地獄に苦しんでいるひとりと言及され，幕を閉じる。なお，注目したいのは，禅僧も芥川も，孤独を単に「ひとりでいる状態」とは認識しておらず，苦しいものと感じていることである。これは芥川と禅僧が「孤独」と「孤独感」を同一視していたことを示唆する。

2）宮沢賢治『猫の事務所』[16]

舞台は，軽便鉄道の停留所ちかくにある，猫の第6事務所。事務所は猫の歴史と地理を調べる場で，事務長の黒猫，一番書記・白猫，二番・虎猫，三番・三毛猫，四番・かま猫のメンバーが働いていた。ただ，かま猫は，夜かまどの中に入って眠る癖があるためいつも身体が煤で汚く，鼻と耳にも付着し狸のようであるため，他の猫たちから嫌われていた。ある時，ぜいたく猫が訪れ，氷河鼠を食べにベーリング地方へ行きたいが，どこがいちばんいいか，と訊く。そのとき，かま猫だけが精緻に返答し，事務長をおおいに感心させた。他の猫たちはかま猫を馬鹿にした様子。このように猫には便利なものだった。

ある時，隣の虎猫が昼の弁当を床へ落とし，かま猫はそれを拾い渡すが，虎猫は床に落ちた弁当を喰えというのかと怒りだす。またある時は，三毛猫が筆を床に落とした。拾おうとかま猫が立ち上がった途端，三毛猫は机から乗り出しすぎていたためひっくり返り机から落ちた。「かま猫，きさまはよくも僕を押しのめしたな」と怒鳴る。このような諍いの度に，事務長は間へ分けはいり場をなだめるのだった。この具合のため，かま猫は実に辛い。しかし事務長は親切にしてくれる，かま猫仲間も自分を名誉に思ってくれるのだから，どんなに辛くてもやめないと決心した。しかし，事務長もあてにならなくなる。

ある日，かま猫は風邪をこじらせ足の付け根を腫らし歩けなくなった。仕事を休んでしまった1日，かま猫は泣いていた。その頃，かま猫を心配する事務長に対し，猫たちがかま猫を陥れるような嘘をつき，事務長はまんまと引っかかった。翌日回復したかま猫が喜んで出勤すると，みんなかま猫を無視し始めた。あまりに辛く悲しいかま猫は昼に弁当も食べず，じっと膝に手をおいてうつむき，途中から泣き始めた。そのとき，事務長の背後の窓から不審そうに見る金色の獅子がいた。しばらくは中を見ていたが，突如戸口を叩いて入ってきた獅子は，大きなしっかりした声で解散を命じ，事務所は廃止になった。かま猫は半分獅子に同感だった。

本作は，孤独について言及しているわけではないが，取りあげた。それは，孤独と同一視しかねないプロットと判断したからである。事務所内におけるかま猫の最終的な立場は，かま猫の内心を想像すれば孤独感と判断できる。しかし，彼が泣いたのは孤独だからではなく，理由も分からず周囲から無視されているからであり，孤独に至る過程に問題がある。また，かま猫における孤独感とは，「同僚や事務長から無視されている」ことを起因とする感覚を示す。このように，「孤独」と「孤独感」は区別することにより，問題点の所在を突き止めることができる。

3）ウィリアム・ゴールディング『蠅の王』[17]

大戦中，疎開先へ向かう飛行機が墜落し，乗機していた少年たちは無人島に漂流する。金の髪をもつ快活なラルフ，博識かつ合理的な小太りのピギー，敬虔な空気を漂わせるサイモン，双子の少年や10に満たない少年たち。そして，ラルフとはそりが合わないジャック。助けを待つ間，ラルフを筆頭に少年たちは秩序ある生活を行うが，ジャックはラルフがリーダーなのが気にくわない。ラルフはほら貝を持つ。鳴らすことで島内の少年たちが浜の集会場に集い，そこで会議を行うのだった。そんな折，船が島の近くを通ったにも関わらず，烽火を怠った当番を発端にしてラルフ一派のなかで諍いが生じる。そ

の隙を縫うように，ジャックはラルフ一派を次々と引き込み，とうとうラルフは仲間のほとんどを奪われてしまう。ジャックらは顔に泥を塗りたくり，蛮族のように振る舞うようになり，日に日に野生性が増していく。ジャック一派のひとりは，ラルフの仲間であるピギーの頭上に岩を落とし，殺害する。ジャックは，目障りだったラルフを殺害するため，みんなで島中を追いかける。果ては森林に火を放ち，隠れたラルフを炙り出そうとする。諦めかけたラルフと暴徒と化したジャックらを救ったのは，島全体による烽火に導かれ上陸した海兵。燃える孤島を背景に，少年らは声をあげて泣くのだった。

ラルフは快活な人物であり，少年たちのリーダー的存在だったが，ある諍いを境に歪みが生じ，次第に少年たちはジャックの野生的なカリスマ性に惹かれていく。ジャックらに追い込まれ，自分以外は全員敵となったラルフは孤独感を抱く。他方，ラルフの統治に納得せず，群れとは距離を置いていた頃のジャックもひとりであった。ただし，ラルフはジャック一派に味方を殺害されたことで孤独感をいだかざるを得なかった一方，ジャックはラルフの統治に馴染めず，ゆえに集団とは距離を置いていたという点で，自らひとりでいることを選択したといえる。孤独感を抱く状況に陥ったラルフとひとりを選択したジャック。ここでは，ひとりでいる状態と孤独感が明確に分離していることがわかる。

2-3　孤独に関する文献

1）作田（1967）は孤独について「他者，とりわけその個人にとって重要な意味をもつ他者に，コミュニケーションができないこと，愛されなかったり尊重されなかったりすることから生ずる心の状態（たとえば寂寥感）である。」[18] とする。ここから作田はさらに掘り下げ，他者との交わりがあるにも関わらず感じる孤独とは何かについて，「役割を遂行されることを期待されている個人は，残余部分としての自己…の諸層に根ざしているさまざまの感情や願望をそのまま表現することは許されない。彼の自己は沈黙を余儀なくされる。」[19] と述べる。

作田のいう孤独とは，個人にとって重要な人物とうまく関係が築けないことで生じる感情を示しているように思われるが，「孤独」と「孤独感」を同一視した考えであるのは否めない。ただ，孤独に至る過程を記しているとみれば，自分の望むような対人関係を築けないこと，また立場上，我を抑えて役割を演じなければならない場において，次第にひとりになっていく様はうかがい知れる。

2）中川（2014）は，父親の海外赴任に伴い４年９ヶ月間（14歳から18歳）アメリカのある田舎町に引っ越し，そこでの生活を述懐する。当初はほぼ英語を話せず，ヒアリングもままならなかった。当時の国際間における情勢，文化の違いによる誤解など，クラスメイトや町の人々などから嘲笑されることも少なくなく，あまりよい環境ではなかった。学校から自宅へ帰宅すれば，やることはテレビを観て，日本の友達に思いを馳せ，度々両親には帰国の旨を訴えていた。それから５ヶ月目，英語が分かるようになり，陸上部で仲のいい８人と出会い，アメリカに行って良かったと心から思えるようになったという。しかしそれ以後も，しばらくは苦難の日々が続いた。このような青年期を振り返り中川は，結果的にはアメリカ生活で経験した孤独は貴重であり，また，その後の人生の良い糧となったと述べる。[20]

中川の孤独は，文化の違いを起因とする孤独といえる。そのような環境下における自分を中川は孤独と表現する。辛い経験ではあったものの，後の人生を考えると，いい経験にはなったと述べている。

3）ヴィクトール・E・フランクル（2002）は，学者としてではなく，一被収容者としてナチス強制収容所で体験した日々を綴った『夜と霧 新版』のなかで，常に群として行動・生活しなければならない強制的な集団から離れ，ひとりになって思いにふけりたいという思いが生じた体験を述べている。著者はこれを「ささやかな孤独に包まれたいという渇望」と表現する。そのため，著者は医者としての活動が認可されて得た，ある程度の自由において，毎日死体が半ダースほど投げ込まれる仮設テントのような建物のなかで，「ひとり」を実現していたという。[21]

フランクルのいう「ひとり」とは，被収容者として一時も他の被収容者と離れらない環境下で生じたものであり，ゆえにひとりになる時を欲した。さらに，「ささやかな孤独に包まれたいという渇望」における「孤独」と言う表現自体が訳文であることも含め，文脈からは「孤独」が寂しさを含んでいるものではなく，むしろ「精神の自由」に結びつく状態と考えられる。

2-4　孤独が示す内容について

本章では第一に，辞典における「孤独」と「孤独感」の定義を確認した。「孤独」においては，調査した6つの辞典全てが「ひとりぼっち」と意味づけしているが，近年においては「仲間や身寄りがなく」「心を通い合わせる人が一人もなく寂しい」などの印象や感覚が追加されている。「孤独感」に関しては，『-感』『孤独さ』のように派生語として取り上げられる辞典がある一方，そもそも扱っていない辞典もみられた。以上から，現代における「孤独」は「ひとりでいる状態」と区別され，「寂しさ」等のネガティブなイメージを含みつつ「孤独感」と同一視する用法が定義のレベルにおいて認められている。

第二に，個人の境遇による孤独の意味づけを探るため，物語を有するコンテンツと三つの文献を取りあげた。前者には，孤独に至るいくつかのパターンを見出しただけでなく，「ひとりでいる状態」と「孤独感」が明確に分離している状況を抽出した。そして，次に三つの文献を取りあげた。作田のいう孤独は「寂寥感」を含むが，これは「孤独感」に含まれる概念であり，「孤独」と「孤独感」の同一視が招く混乱と推察する。中川は異国生活において文化の違いにより「孤独」にならざるを得ない時期があった。一方，ナチス強制収容所を体験したフランクルは，四六時中集団と共に過ごさなければならないという一種の極限的状況下において孤独を欲した。したがって，作田と中川は寂しさを内包する「孤独」であるのに対し，フランクルは「意思」や「精神の自由」を担保する表現として「孤独」を用いているという違いがある。

3　プロットが孕む友情という圧力

3-1　教育との関連で取り上げられる「友情」

「孤独」が「ひとりでいる状態」と区別され，「印象」「感覚」までを含む「孤独感」と同一視される状況を示す文献は前述のとおり存在するが，逆に「ひとりである状態」を選ぶということについても文献が存在する。後者においては，「寂しさ」というイメージが内包されず，「意志」や「精神の自由」を担保する表現として示される。しかし，若年層においては，「学校」という社会との関わりの中で教育的視点から「ひとりでいる状態」を「孤独」とみなし，否定的に捉える状況も垣間見える。

先述したが，学校においては，ひとりでいる状態は概して友達という存在と結びつく。しかし，「ひとりでいる状態」と「友達がいない」ことは，本来は別のものだろう。ではなぜ，ふたつに関連があるように思えるのか。ここでは，学校教育でも取り上げられることのある太宰治「走れメロス」を例にあげる。

太宰治『走れメロス』[22] のあらすじは，おおむね以下の通りである。シラクス市の暴君ディオニスは人間不信により，見境なく民を処刑していた。偶然訪れたメロスは親友セリヌンティウスを人質に，人との信頼を証明しようと試みた。メロスは極限まで疲労しながらもディオニスとの約束を果たした。王はふたりの友情に心をうたれ改心し，市は暴君の圧政から方解放されるのであった。本作は友情を象った作品として知られ，教科書題材としても選ばれるほどに有名な作品である。一方で，ディオニスは暴君として描かれているが，その内面には「孤独」が描かれ，その対比がメインのプロットとなっていることがわかる。

次に友達をつくろう，ひとりでいてはいけないという周囲の雰囲気や環境に馴染めなかった者のエピソードで挙げる。

中島（2009）が中学三年生の頃，担任の女性教師は，中島が一人でいることを決して許さなかった。「あなた，なんでみんなと打ち解けないの？」[23] と言われ，「『どうも駄目なんです』という答えを繰り返しているうちに，クラス会で『問題』にまでしたのである。」[24] また，ひとりで下校することも，先生らから駄目だと言われ，「家でも，近所でも，つまりすべての場所で『みんな一緒主義』を実行できない子は異常者扱いされた。」[25]

これに関連するのは，筆者がインタビューした教師の体験談である。「自分は，休み時間にひとりで本を読む子どもはそれでいいと思っていたけれど，年配の先生から，『どうして，あの子をかまってあげないの？』と叱られてしまった」らしく，「色んな考えをもつ子どもたちがいるけれど，それは先生たちも同じ。だからこそ，あまり持論は出さないほうがいいのかもしれない」と思ったと述べた。

以上は，友達づくりを奨励すること，他者と仲良くすること，みんなと一緒に行動することを“善い”とする雰囲気が教育と結びついていることを示して

いる。これらの例を見ると，なぜ「ひとりでいる状態」を「孤独」とみなし，ネガティブなイメージを持ってしまい，人間関係の中で許容できないのだろうか。また，それらを疑問に思う場合でも，受け入れるような雰囲気が醸成される。

3-2　仲間や友情に価値を置く物語

「友達」「友情」が善であるとする学校生活における価値観は，前述のように学校で取り上げられることの多いコンテンツや教師の価値観を反映させた学校生活のあり方の他にも，子ども達に影響を与えるものがあるだろう。本項では一つの方向としてメディア表現を通じて醸成されている可能性を示すために，漫画やドラマ，書籍などから，仲間や友情に価値を置く物語を抽出して考察する。通常，仲間とは，「いっしょに何かをする人（の集まり）。」[26] であり，その中には直接的に心のつながりや絆が含まれているわけではないと考えられる。しかし，物語の中では，当初は単なる「仲間」だったものが，「友情」や「心のつながり」を生じていく様とその結果として問題が解決していく様子が描かれる。

1）岸本斉史『NARUTO』

原作は「週刊少年ジャンプ」にて連載されていた作品である。落ちこぼれの忍者“うずまきナルト”が，仲間と共に様々な苦難を乗り越えて成長していく物語である。ある日，ナルト・サスケ・サクラは，忍者学校の先生カカシによる試験を受けることに。試験内容は，カカシが持っている鈴を奪うこと。しかし，鈴は2つだけである。つまり，3人のうち1人は必ず試験に落ちる。そのため，3人は仲間割れし，結局誰も鈴を手に入れることができなかった。実はカカシのもくろみ通りで，チームワークの重要性を説くためにあえて鈴の数を減らしていたのだった。チームワークを理解したうえで，3人は再度試験を受けられることに。ただし，条件があり，丸太に縛られているナルトには昼食のお弁当を与えないこと。もし食べさせるとその時点で試験は終了する。しかしサスケとカカシは，自分のお弁当をナルトに分け与えるのだった。そんな3人の様子をみたカカシは試験の合格を言い渡す。これも3人のチームワークをみるテストだったのである。このような背景において3人に放たれた言葉が次の台詞である。「忍びの世界でルールを守れないやつはクズ呼ばわりされる。けどな仲間を大切にしない奴はそれ以上のクズだ。」[27]

つまり，「ルールよりも仲間を大切にしろ」という旨の台詞である。もちろん，目的を達成するためにチームワークは重要であろう。ただ，わざわざ「仲間」を持ち出す必要もないのではなかろうか。どのようなルールなのか，そのときの状況，チームメンバの顔ぶれなど，そう易々と全員を仲間だとは思えない者もいるだろう。このように考えると，カカシの発言は個人の心情をなるべく取り除き「仲間」という単語で雰囲気的に全体の統一を図っている。見方を変えれば，互いを仲間だと思わなければならないというルールにもなり得るため，同調圧力を連想させる。

2）『ONE PIECE FILM Z』（アニメーション作品｜原作：尾田栄一郎『ONE PIECE』）[28]

原作は「週刊少年ジャンプ」にて現在も連載が続いている作品。「悪魔の実」を食べることで肢体が自由自在に伸び縮みする能力を手に入れた少年モンキー・D・ルフィが海賊王になるため航海する物語である。数々の島を巡りながら，ルフィは多くの人々・種族を救い，仲間を増やしていく。それゆえ海上の治安を担う組織「海軍」とは度々衝突しつつも，多くの島国・島民から好かれる稀有な海賊団でもある。『ONE PIECE FILM Z』は劇場版だが，脚本は番外編としてではなく原作と地続きである。

「NEO海軍」を名乗る組織が現れ，巨大なエネルギーを含有する鉱物「ダイナ岩」を用いて，3つの島にある火山（エンドポイント）を破壊し大噴火を起こし，海ごと全ての海賊を殲滅させることを目的とする。主将は元海軍大将ゼファー。過去に，海賊によって妻子を殺害され，大将を辞した後は若手の教育に専念。しかしある日，海賊によって右腕を切り落されるだけでなく，2人の新兵は生き残ったが他の新兵たちは皆殺しにされた。そんななか，自分を襲い新兵を全滅させた海賊が「王下七武海」に加盟し，「世界政府」の傘下になったことで失望。軍を去り，復讐の刃を世界へ向けた。

ルフィはゼファーと対峙するも歯が立たず，火山は大噴火を起こし，島は焦土と化した。その際ルフィは麦わら帽子をゼファーに奪われた。ゼファーは最後のエンドポイントへ向かい，ルフィたちは彼の後を追う。その先でルフィとゼファーは再び対峙し，

2人は激闘を繰り広げる。わずかの差でルフィが勝利し，ゼットは止めを刺すよう言うが，ルフィは「気が済んだ」として要求を拒否した。そこに，海軍大将「黄猿」率いる海軍が到着し，ルフィらとゼファーを始末しようとする。次の瞬間，巨大な氷壁がルフィたちとゼットの間にそびえ立つ。ゼットの教え子であるクザンが，ゼットの心中を察し作り上げたのである。ゼファーはルフィたちを庇い，大量の海軍兵，そして大将を相手に最期の戦いを開始する。

悪役キャラクタであるゼファーは非常に格好良く描かれている。アインとビンズがゼファーを「先生」と呼称し慕っていることも描かれている。しかしながら，街が築かれ平和に暮らしていた島を焦土に変えた張本人であり，なかには亡くなった者もいただろう。生き残った者たちも疎開するしかない。火山を噴火させ，果ては世界に向けて無差別に殲滅しようと目論んだゼファーは，すなわちテロリストであるため，劇中では少々美化されているといわざるを得ない。アインとビンズも同様である。世界を業火に包もうとする人物を「先生」と呼ぶため，“慕う”というよりは“信奉している”と表現するほうが適切と考える。

他方，原作の1巻において，“シャンクス”というキャラクタは「どんな理由があろうと‼　おれは友達を傷つける奴は許さない‼‼」[29] と述べている。「どんな理由があろうと」というのは，上述のゼファー同様に，仲間以外はどうでもいい，というニュアンスが感じられる。本作品は「“仲間の大切さ”を教えてくれる冒険譚」とも紹介されるほどに，[30]「仲間」という存在に重きを置き，「友達」とほぼ同義のものとして位置付けている。これは目的意識を共有する「仲間」が「友情」などの心のつながりを求めるゆえに，メンバ間の関係性が「友達」へとシフトしていると考えられる。また，総発行部数を踏まえると（3億2086万部）[31] 多くの人に読まれている作品であることは明らかなため，その影響力を軽視できない。

3）『ROOKIES』（テレビドラマ｜原作：森田まさのり『ROOKIES』/総売り上げ1200万部[32]）

二子玉川学園高校に赴任してきた川藤と，過去に起こした不祥事により活動停止を余儀なくされ自暴自棄となった野球部員たちが，互いにぶつかり合いながら甲子園を目指す物語である。川藤は「希望をすてるな」「夢をもて」という言葉を大声で叫ぶほどの熱血漢であり，加えて復活した野球部の顧問であるにも関わらず野球の経験は皆無に等しい。そんな川藤に対し野球部員は冷ややかな態度で接するが，次第に川藤に信頼を寄せるようになり，晴れて全員がグラウンドに集まり練習するようになった。

紆余曲折を経て，夏の甲子園・東京予選大会の4戦目を迎えたニコガク野球部。負ければ一年間の出場停止を言い渡されるという状況である。しかし，いつもはベンチで選手たちを励ますはずの川藤がいない。実は以前勤務していた学校で生徒を殴り，それが今になって明るみに出たことで高野連は川藤の球場出入りを禁止したためだった。代わりに川藤は，球場の側でラジオ観戦。一方，ピッチャーの安二家はわき腹を負傷しており，痛みに耐え続投していたが我慢に限界がきていた。川藤のもとに安二家担当の医師が現れ，このままでは二度と野球ができなくなるという。しかし川藤は，今を大事にしてやってほしい，鎮痛剤を打ってやってくださいと医師に土下座。熱意に負けた医師は安二家を呼び出し，動きに制限を設け試合の参加を許す。なんとか踏ん張ろうとする部員たちの前に，川藤が現れる。彼は，教職を賭けて高野連を説得しベンチに戻ってきたのだ。その後キャプテンの御子柴がホームランを打ち，ニコガク野球部，応援に駆け付けた学校の生徒たちは歓喜するものの，結局コールド負けした。しかし，高野連の理事のほとんどがニコガク野球部の処分に反対。出場停止を免れ，川藤も二か月の謹慎処分で済んだ。それにも関わらず，川藤は自ら学校から去っていった。納得のいかない野球部員たち。そこへ，再び採用試験を受け二子玉川学園高校に戻って来た川藤が現れる。決意を新たに，ニコガク野球部は来年の甲子園を目指す。

物語は明快であり，自暴自棄となった野球部員の葛藤と，川藤という熱血漢を丹念に描き，甲子園という目標を掲げることで希望をもつこと，夢をあきらめないことを正面から訴える青春ドラマである。ニコガク野球部員は「不良」にカテゴライズされるだろうが，彼らを更生させる点において，川藤の指導は彼らの心的内面に響くものがあるのだろう。これを「仲間」や「友情」と道徳的に表現するのは構わないが，最終回では，校長から野球部の応援を自粛するように言われていた生徒たち，教師陣が球場

へ応援に駆け，あたかも，ニコガク野球部を嫌う人間はいないかのような演出がなされている。

4）ジュール・ヴェルヌ『十五少年漂流記』[33]

物語は，スクーナーに乗り航海していたチェアマン学校の生徒たちが，嵐に遭い，見知らぬ島に漂着したところから始まる。乗船していたのは学年も国籍も一致しない15人の少年たち。幸い，食料や猟銃など生活必需品はある程度揃っており，偶然発見した洞窟に移り住む。調理や身の回りの世話は，黒人で水夫見習いであるモコが担当。また，自分たちを統治する「大統領」を選出し，第一回はアメリカ人のゴードンが当選。生活の基盤は着々と整っていく。年少者のブリアン，ドニファン，ゴードンを中心に，島での日々は何不自由なく過ぎていく。浜をのそのそと歩行するウミガメの頭を斧で切り落とし，海辺に現れたアザラシを仕留め，煮て，油を抽出する。またある時はアルコールを含む液体を生成，さらにキツネを襲い毛皮を手に入れて敷物や衣服に活用するなど，サヴァイバル能力が非常に高い。なお，少年たちの離島生活期間は２年。冬場の気温はマイナス30度になる。

そんな平和な暮らしに亀裂が走るのは，次の大統領選挙で，ブリアンが選出されたときだった。もとからドニファンはブリアンをあまりよく思っておらず，言うことは聞けないと，３人の少年を連れて洞窟から出て行ってしまった。ブリアンと，ブリアンの弟ジャックがドニファンらの様子を見に行くと，ドニファンらを狙うジャガーを発見。ブリアンはジャガーを短刀で間一髪撃退し，ドニファンとブリアンは仲直りした。漂流したそもそもの原因はジャックだったが，それも許された。

終盤，島に流れ着き少年たちの道具などを強奪しに来たセヴァーン号の一味。後に少年たちの仲間に加わった水夫エヴァンズと協力し，一味を撃退。堪らずボートで島から脱出を試みる一味だったが，モコの放った大砲の砲撃をくらい死亡。最後は修繕したボートで，少年たちは２年ぶりの故郷へ帰るのだった。

この物語は，前述『蠅の王』とシュチュエーションが酷似するものの，内容は対をなす。そのため比較すると，本作がいかに爽やかな物語かが感じられる。しかしながら，違和感は拭えない。生き物を殺し解体し，衣食住に活用する少年らは，そのことにほとんど葛藤しない。またブリアンとドニファンの仲直りも，「ブリアンが命を賭けて助けた」だけで，ドニファンがブリアンを敵視した心的理由の解消には至っていない。加えて，たしかに悪党だが，セヴァーン号の一味を殺害したことに，少年たちには何の反芻もなく，むしろ喜んでいる。しかし，それで構わないのだろう。なぜなら少年たちは，友情によってサヴァイバルを制し，悪党を撃退し，無事帰郷できたのだ。

3-3 「仲間」「友情」についてのまとめ

本章で紹介した４件の物語において，主人公たちは「友情」を内包した「仲間」という要素で困難を乗り切っていく。この要素を否定・拒否するキャラクタも登場する場合もあるが，主人公たちの想いに触れ心変わりすることが少なくない。したがって，「友情」を重視する主人公たちは“善”として表現され，彼らと対立する存在は“善ではない”という形で対比されていると考えられる。このようなコンテンツから受容者は，「友情」を内包した「仲間」が至上であるかのように解釈しかねない。また，「友情」をテーマとした子ども向けアニメーション番組は少なくなく，アニメーション番組そのものを子どもたちもよく見ている。[34] このことから，目的意識を共有する「仲間」が「友情」などの心のつながりを育んでいくことに価値を置くコンテンツが受容者に与える影響として，「仲間」や「友情」等を“善”とし，対立軸となる「ひとりでいる状態」を「孤独」と捉える可能性が挙げられる。人との繋がりの大切さを説くプロットが，人に感動を与えると同時に孤独に苛む者を生んでいると考えられる。

4 「ひとりでいる」という選択

4-1 友情を肯定的に捉えないと言う意見

前章では，物語を有するコンテンツを検討することで，仲間や友情を奨励する危うさの一端を確認した。本章は前章とは対をなす考えを，実際に生きる（あるいは生きていた）者による記載・発言を文献や映像から抽出し，紹介していく。下記に取りあげる人物は皆，本を著述する者やテレビ番組に出演する者など，無名ではない。では，なぜそのような者たちを取りあげるのか。インターネット上や書籍・資料から過去の発言を見つけやすいこともあるが，

注目するのは，個人の考えが表明されている点である。そのようなものは，これまでにも取りあげて検討してきたが，本章で紹介する考えは，端的に述べられているものが中心となっている。どのような考えから，「ひとりでいる状態」や「孤独」を肯定的に捉えているのだろうか。

1）タモリ

テレビ番組として放映されていた『笑っていいとも！』内で，東進ハイスクールの林修とタモリが2人でトークをする企画があった。過去にタモリが発言したとされる言葉「友達はいらない。諸悪の根源である」「やる気のあるものは去れ！」などの真相を，林修が聞くというものである。[35]

メインコーナーのテレフォンショッキングの当初の謳い文句が「友達の友達は，皆友達だ。世界に広げよう友達の輪」だったにもかかわらず，タモリは，「『友達100人できるかな』とかいう歌が嫌いだ」といい，「何が誇りなんだ！ 友達の数が多いと人生が豊かになるなんてとんでもない勘違いだ」としたうえで，ひとりになった方が可能性が広がると説く。[36] それに続き「友達の数が多いと人生が豊かになるなんてとんでもない勘違い。結局，その“輪”以上のことができない気がする」と発言。

また，タモリは同局の番組『ヨルタモリ』でも同じような旨の発言をしていた。「今の教育がおかしいよね。夢を持ちなさい，友達を持てって，友達なんかいなくたって生きていけんだよね」という。これに対し，バーのママ役である宮沢りえが，「まぁね，でもあたし生きていけないわ，ひとりでは」と言い，タモリは「自然にできるさそりゃ」と返答した。[37]

2）林修

東進ハイスクール講師・タレントとして活躍する林は，聞き手である編集部から「林先生に友達はいらっしゃるのでしょうか。」と問われ，「友達は少ないですよ。でもそもそも必要ですか？」と答え，「家族がいればいい。僕は結婚もしているし，両親もいます。あとは，仕事関係のつながりがしっかりしていれば，それで問題ないはずです。」と続ける。[38] その理由として，「『いつもの店で，いつもの仲間と，いつもの話』」を「馴れ合い」とし，「充実した人生を送っている人は，こうした慣れ合いを嫌います。」という。また，ひとりのメリットとして，「静かに考える時間が得られることも挙げられます。」と述べている。[39]

留意したいが，林は「建設的な話をする仲間ならいいんですが，」とも述べており，あくまでもただ時間を浪費するだけの友達関係を好まないという内容を述べている。家族や両親，仕事関係のつながりがあるならば，特別に友達という存在はいらない。コミュニティに属していても，ひとりでいることを選択できる。このような旨を含む考えだと思われる。また，「慣れ合い」に対しやや否定的な思いがあるようで，タモリと同様な考えといえる。ただし，本稿とは異なり，林のコメントでは「仲間」と「友達」を混同していることを付記しておく。

4-2　ひとりを肯定的に捉えることについて

1）清水真砂子

『ゲド戦記（著：アーシュラ・K.ル=グウィン）』の翻訳を担当した清水は，短大に勤務している頃，新入生対し「独り居[40]の時間をたっぷり持つようにと話した」が，授業後に必ず何人かの学生に呼び止められ，「『ほんとうにひとりでいてもいいでんですよね』と念を押された」という。また，気がかりなこととして，「黙っていたいのに，無理をしてでも，しゃべらなくてはいけないと考える人が10代の中にますます増えているように見えること」といい，続けて，「内容はどうであれ，しゃべるという行為そのものを価値と考える人々が多くなっているように思われる」と述べている。[41]

清水のいう「しゃべる行為そのものを価値と考える人々が多くなっているように思われる」とは，会話内容に価値を置かない若者が増え，表面的な付き合いで頭打ちとなるような人付き合いが増えることを心配していると考えられる。

2）アンソニー・ストー

アンソニー・ストー（1994）は，「親密な愛着は，人間が人生を繰り広げる上での中心に違いないが，不可欠な中心というわけではない」[42] という。ストーは，世に名を馳せた哲学者，作家，画家，詩人などの多くは孤独であり，そのことが「創造力的想像力」を得るために重要なものであると指摘しつつ，「最も幸福な人生とは，たぶん，対人関係や非人格的な興味が，どちらも唯一の救済手段として理想化され

ていない人生だろう」[43] と，捉え方を固定しない態度を理想としている。

3）エリーズ・ボールディング

エリーズ・ボールディング（1988）は，孤独の積極的な意味をさぐる。「わたしたちは，とにかく集団でいようとする強迫観念にとりつかれています。だれもがみんなから離れていると利己的であるかの如く感じるが故に自らを埋没させるのです。」[44]「考えてみれば，わたしたちが子どもに対して抱く要求は，たいそう矛盾しています。一方では，社会が用意しているこの世の居場所にできるだけすんなりとはまりこんでくれるように願い，またもう一方では，『独創的』であってほしいと望むのです。」[45] といい，「創造的活動には，途中で妨げられることのない，大きなかたまりとしての時間がいるのです。」[46] と述べている。

ストーとボールディングのように，個人の内的な成長を促すものとして，孤独を選択し物事を考える時間を確保することの有用性を説く視点がある。「孤独」と言う表現自体が訳文ではあるが，書籍の主旨上「孤独」で不都合はないと考えられる。なお，創造性による肯定は日本人著者にもみられる。木原武一（1995）は，孤独の危ない面を留意したうえで，[47] 功を成した歴史的人物が「孤独」とどのように付き合っていたのか，という点に着目し，孤独であることの利点を記している。[48] 以上の人物は，選択された孤独について述べている。

4-3 「ひとりでいること」についてのまとめ

本章は前章の対立軸となる考えを，評論・エッセイ・インタビューなど個人の考えを表明するものを取りあげた。どれも「ひとりでいる状態」を肯定し，友達がいなければならないという雰囲気に警鐘を鳴らしている。これらの警鐘が度々示される背景として，ひとりでいる状態を否定的に捉え，それらを友達がいないという状態と見做す，さらに友達がいないことは“善”ではないというネガティブイメージを連想させるような状況がメディア表現を含んだ各所で生み出されているからと考えることもできる。そもそも友達がいないからと言って社会生活が送れないというわけではないことは，友達への同調圧力を否定するような意見を述べている人物として，社会的に認められていると考えられる著名人の発言が含まれていることからも明らかであろう。つまり，社会生活を滞りなく送るためのコミュニケーション能力は，感覚的，精神的な繋がりを内在する「友情」「仲間」を作ることとは区別すべきであるにもかかわらず，現状では繋がって意識されているのではないか。「孤独」と「社会におけるコミュニケーション能力不足」の同一視を注意深く避けることで，「ひとりでいる状態」のポジティブな部分と「社会におけるコミュニケーション能力」を育成することが矛盾なく両立するようになるだろう。また創造力を発揮するためにあえて孤独を選択すると言う方法は，万人に当てはまるものではないが，ひとりでいる状態を肯定的に捉えることを可能にする考え方である一方で，そのことが社会におけるコミュニケーション能力不足と同次元に扱われるものではないということも示している。

5. 考察

本稿は，主として「孤独」に関連する文献や物語を有するコンテンツを基に，3つの点を明らかにすることを目的とした。順次，考察していく。

1）「孤独」の意味における「状態」と「感覚」の関係

2章では，辞典における「孤独」と「孤独感」の定義を確認した。「孤独」においては，調査した6つの辞典全てが「ひとりぼっち」と意味づけしているが，近年においては「仲間や身寄りがなく」「心を通い合わせる人が一人もなく寂しい」などの印象が追加されていた。「孤独感」に関しては，『-感』『孤独さ』のように派生語として取り上げられる辞典がある一方，そもそも扱っていない辞典もみられた。したがって現代における「孤独」とは，「ひとりでいる状態」と区別され，「寂しさ」等の感覚的なイメージを含みつつ「孤独感」と同一視する用法が定義のレベルにおいて認められていることを確認した。

2）メディア表現における「孤独」とネガティブなイメージの連想について

3章では，「仲間」や「友情」等に価値を置くプロットと「孤独」のネガティブなイメージとの関係について検討した。どれも主人公たちの結束は固く，危機の多くは友情などによって解消されていた。な

かには，そのような雰囲気と対立するキャラクタも登場するが，主人公らと関わるうちに心変わりする者が少なくない。主人公らは個人の心情を慮る素振りをみせるものの，向かう先は常に「仲間」であり，個人よりも集団の維持を優先しているようにも感じられた。「仲間」「友情」を重視する主人公たちは“善”として表現され，彼らと対立する存在は“善ではない”という形で対比されていると考えられる。このように仲間との絆が至上であるかのように描かれた物語は非常に多い。このことについて，森博嗣（2014）は，「人はなぜ孤独を怖れるのか」という疑問に対し，マスコミやエンタテイメントによってつくられた虚構を真に受け，思い込まされているだけではないか，という旨を述べる。マスコミに関しては，「犯人は孤独な人間だった」「犯人はオタクだった」「犯人はネットの中だけで生きていた」というように報道することが，孤独はわるいものだというイメージを流しているのではないか，といい，「犯人には友達が沢山いた」「犯人には家族がいた」などとは異なる響きをそこには感じられるという。[49] エンタテイメントに関しては，多くの作品が友達や絆を奨励する道徳的な指導を含んでいることを指摘し，それらが正しいかのように思い込まされているのではないかと述べている。[50] ただし，森は「孤独」が悪いことにむすびついていることは述べているが，メディアが悪い印象を作り上げていると述べるにとどまっている。

3)「孤独」と「社会におけるコミュニケーション能力不足」の同一視について

4章では，前章の対立軸になると判断した評論・エッセイ・インタビューを取りあげた。仲間や友情を重視する雰囲気，孤独を一方的に悪いものと捉えるような者たちに対する警鐘といえよう。どれも主旨はシンプルであるが，建設的な話合いや社会生活において妥当性のあるコミュニケーション能力と，切迫感を持ちながら友達を作るためだけにただ話をするという状態を明確に分けることが可能であると考えられるものである。また創造的な能力を発揮するためにひとりでいる状態を重視する場合があることも見出された。

6　おわりに

本研究は，日常的に接するコンテンツのなかで，物語を有するものを中心に孤独を考えることを試みてきた。物語は本来娯楽であるが，場合によっては脚本担当者の価値観を反映させ，受容者の既存の考えを揺さぶる強力なメディアでもある。しかし，そこで「仲間」や「友情」等を強調する物語を量産することの，危うさも見出された。したがって，ひとりでいることや孤独を一方的に悪いものと捉えてしまう根本的な理由は，以下のようにまとめられる。

1）近年傾向が強まった「孤独」「孤独感」の定義的な同一視。

2）メディア表現には「ひとりでいる状態」を「孤独」とし，対立概念としての「友情」や「絆」を社会でのルールより上の価値や，問題解決の鍵として位置付けているものがある。

3)「ひとりでいる状態」と「社会的なコミュニケーション能力不足」が意識の中で混在している。

これらはメディア表現の制作者の中にも浸透していることから，より強化される方向に進む危険がある。これらはわかりやすいプロットを目指した結果なのかもしれないが，メディア表現における制作者が，プロットを単純化することの危険性も見出された。

以上の3点を踏まえると，「ひとりでいる」ことは1つの状態に過ぎず，教育現場やメディア表現など社会の中で発信されている情報が，そこに「孤独感」という価値を付加しているという点を考える必要があるだろう。特に目的意識の共有だけでなく，心の繋がりを求める「友達」がいることを若年層向けの情報の中で安易に“善”とすることについての議論が求められるのではないだろうか。先述の中島（2009）のように，ひとりで過ごしたい者が周囲との関りを強要されること，そして，著名人がわざわざ公に表明するからには，現状に疑問をもつ者も少なくないと想定されるからである。

註

1　山田斗志希「各プロットにおける悪役キャラクターの役割について」，富山大学人間発達科学部特別研究論文,2016

2　町田静夫『学校，生徒，教師のための心の健康

ひろば』，駿河台出版社，2002，pp33-41
3　友達いなくて便所飯？「一人で食べる姿，見られたくない」，朝日新聞｜夕刊，2009年７月６日.
大学生「トイレでランチ」報道　「独り」見られたくない？，JCAST テレビウォッチ，
http://www.j-cast.com/tv/2009/07/07044765.html, 2009.7.7付，2016.9.17閲覧.
4　中村禎夫・桜井信也「大学生のメンタルヘルス」，早稲田大学大学院教育学研究科紀要 第19号，2009，pp52-54
5　櫻井信也「大学生のもつ悩みについて-大学生は，何に，どのように悩んでいるのか-」，神奈川県立外語短期大学紀要.総合篇 27，2004，P54-55
6　ワンカラ｜ひとりカラオケ専門店，
https://1kara.jp, 2016.10.13閲覧
7　編≈久松潜一・佐藤謙三『国語辞典（愛蔵版）』，角川書店，1969，p367.
8　編集≈西野実・岩淵穎悦太郎・水谷静夫『岩波国語辞典　第四版　デスク版』，岩波書店，1986，p393.
9　編者=西尾実・岩淵悦太郎・水谷静夫『岩波国語辞典 第五版』，岩波書店，1994，p407
10　編集=小学館辞典編集部『現代国語例解辞典 第三版』，小学館，2001，p460
11　編≈森岡健二・川端善明・星野高晃一『集英社国語辞典』，集英社，2012，p630.
12　編者=見坊豪紀・市川孝・飛田良文・山崎誠・飯間浩明・塩田雄大『三省堂国語辞典 第七版』，三省堂，2014，p523
13　コトバンク，
https://kotobank.jp/word/%E5%AD%A4%E7%8B%AC-503022#E3.83.87.E3.82.B8.E3.82.BF.E3.83.AB.E5.A4.A7.E8.BE.9E.E6.B3.89, 2016.9.8閲覧.
14　同上，http://dic.search.yahoo.co.jp/search?ei=UTF-8&fr=kb&p=%E5%AD%A4%E7%8B%AC%E6%84%9F&dic_id=all&stype=full，2016.9.8閲覧.
15　芥川龍之介『孤独地獄』，底本：『現代日本文学大系 43 芥川龍之介集』，筑摩書房，1968，青空文庫，1998
http://www.aozora.gr.jp/cards/000879/files/83_15058.html，2016.9.26閲覧
16　宮沢賢治『猫の事務所』，底本：『宮沢賢治全集8』，ちくま文庫，筑摩書房，1986，底本の親本：『新修宮沢賢治全集　第十三巻』，筑摩書房，1980，青空文庫，1999，http://www.aozora.gr.jp/cards/000081/files/464_19941.html, 2016.9.23閲覧
17　著=ウィリアム・ゴールディング，訳=平井正穂『蠅の王』，集英社，1978
18　作田啓一『恥の文化再考』，筑摩書房，1967，P27
19　同上，P31
20　中川淳一郎『縁の切り方 絆と孤独を考える』小学館，2014，pp182-237
21　著=ヴィクトール・E・フランクル　訳=池田香代子『夜と霧　新訳』，みすず書房，2002，pp84-86
22　太宰治『走れメロス』，底本：『太宰治全集 3』，ちくま文庫，筑摩書房，1988，底本の親本：『筑摩全集類聚版太宰治全集』，筑摩書房，1975～1976，青空文庫，2000，http://www.aozora.gr.jp/cards/000035/files/1567_14913.html，2016.9.22閲覧
23　中島義道『人生に生きる価値はない』，新潮社，2009，P8-9.
24　同上.
25　同上.
26　編=見坊豪紀・市川孝・飛田良文・山崎誠・飯間浩明・塩田雄大『三省堂国語辞典 第七版』，三省堂，2014，p1103
27　岸本斉史『NARUTO』，集英社，２巻，2000，P24.
28　DVD,『ONE PIECE FILM Z』，ポニーキャニオン，2013
29　尾田栄一郎『ONE PIECE』，集英社，１巻，1997，p37
30　名言豊富な「人生を変えたマンガ」TOP5―『SLAM DUNK』は不動の人気！｜ダ・ヴィンチニュース，http://ddnavi.com/news/280842/a/, 2016.1.15付，2016.9.17閲覧.
31　漫画全巻ドットコム，
https://www.mangazenkan.com/ranking/books-circulation.html, 2016.10.16閲覧
32　TBS『ROOKIES（ルーキーズ）』｜はじめに，http://www.tbs.co.jp/rookies08/intro/, 2016.

9.19閲覧.
33　著=ジュール・ヴェルヌ，訳=波多野 完治『十五少年漂流記』，新潮社；改版，1951
34　鶴島瑞穂「現代のアニメを特徴づける『日常性』と『時代の影響』～アニメ番組の内容分析研究から～」，放送研究と調査 5月号，2012，pp62–71
35　2014年3月31日放送終了。企画は同年の2月10日の放送回の企画，林修のコーナー『じっくり話し太郎』でのタモリとの会話である。
36　【エンタがビタミン♪】タモリの名言は本当か？　林修　先生が『いいとも』で真相を追及。
| Techinsight, http://japan.techinsight.jp/2014/02/tamorimeigen-hayasisensei-iitomo20140210.html, 2016.8.28閲覧。
37　2015年9月20日放送終了。発言は2015年5月10日の放送回，SMAPの草彅剛がゲストの回である。
38　林修『受験必要論 人生の基礎は受験で作り得る』，集英社，2015.10，pp179–182
39　同上
40　意味は「ただひとりでいること。ひとりぐらし」，Weblio 辞書，http://www.weblio.jp/content/%E7%8B%AC%E3%82%8A%E5%B1%85，2016.10.19閲覧
41　清水真砂子『大人になるっておもしろい？』，岩波書店，2015.4，pp43–45
42　著=アンソニー・ストー，訳=森省二『孤独 自己への回帰』，創元社，pp41–42.
43　同上，P305
44　著=エリーズ・ボールディング，訳=松岡享子『子どもが孤独でいる時間』，こぐま社，1988，P11.
45　同上，P22–23
46　同上，P24–25.
47　ゲーテによる悲劇『ファウスト』の主人公の台詞「結局のところ，悪魔に身をゆだねたのも，まるっきり見捨てられた，ひとりぼっちの存在になりたくなかったためではなかったのか」を挙げ，「それほど，孤独が耐えがたくなることもあり，孤独があぶないものになることもあるというわけである。」と述べる。
木原武二『孤独の研究』，PHP 研究所，1993，pp10–14
48「孤独こそ，人間の幸福にとって不可欠の要素である」と述べたという，ピアニストのグレン・グールド。同上，pp70–95
森の池のほとりの小さな小屋で，2年3ヶ月間ひとりで住み，孤独であることが人間にとっていかに大切かを語った，作家のヘンリー・ディヴィッド・ソロー。同上，pp169–180
49　森博嗣『孤独の価値』，幻冬舎，2014, pp99–101
50　同上，pp62–64

（2016年10月20日受付）
（2016年12月7日受理）